

# 総合日本語コース報告（2016 年 10 月～2017 年 9 月）

濱田 美和

## 1 はじめに

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために、2004 年 10 月に開設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で、日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低い  
ため、本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級および中級クラスとの合同授業として開講  
している。2005 年 9 月に初めて本コースの修了生を送り出し、2016 年 10 月に 13 期目の学生を迎えた。

以下、2016 年度秋期（2016 年 10 月～2017 年 3 月）及び春期（2017 年 4 月～9 月）の総合日本語コースの実施状況について報告する。

## 2 受講者

### 2.1 日本語・日本文化研修留学生

「2016 年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は 2 人で、秋期、春  
期ともに総合日本語コースを受講した。学生の出身国・地域はフィンランドとベトナム各 1 人で、所  
属は人文学部 2 人だった。

総合日本語コースの授業科目として、2016 年度は秋期と春期、各期上級 9 科目と中級 8 科目を提供  
した。総合日本語コースの授業科目は必修科目ではないが、本学の日本語・日本文化研修留学生プロ  
グラムの修了要件の一つとして、学部や教養教育の授業科目及び総合日本語コースの授業科目の中か  
ら各期 8 科目以上の履修が義務づけられている。2016 年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本  
語コースの受講状況は、10 科目（秋期 5、春期 5）が 1 人、9 科目（秋期 5、春期 4）が 1 人だった。

### 2.2 協定校からの交換留学生

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために開設した日本語プログラムであるが、  
2006 年 10 月より、本学との学術交流協定に基づく交換留学生も総合日本語コースに参加可能となり、  
中級レベル以上の日本語力を有する交換留学生は総合日本語コースを受講している。交換留学生につ  
いては、留学期間が 1 年の学生が大半であるが、一部半年の学生がいること、また、留学期間が 1 年  
の学生についても秋期、春期のいずれかの期のみを受講する学生もいることから、期ごとに受講状況  
を述べる。

受講者数については、秋期は 21 人で、出身国・地域別の内訳は中国が 11 人、韓国が 5 人、台湾と  
ロシアが各 2 人、ベトナムが 1 人、所属別の内訳は人文学部が 15 人、経済学部が 2 人、人間発達科学  
部と人文科学研究科と人間発達科学研究科と経済学研究科が各 1 人だった。春期は 22 人で、出身国・  
地域別の内訳は中国が 12 人、韓国が 5 人、台湾が 3 人、ベトナムとロシアが各 1 人、所属別の内訳は  
人文学部が 14 人、経済学研究科が 3 人、経済学部と人文科学研究科が各 2 人、人間発達科学研究科が  
1 人だった。

履修科目数については、秋期は 5 科目が 2 人、4 科目が 8 人、3 科目が 4 人、2 科目が 3 人、1 科目が 4 人、  
春期は 7 科目が 1 人、6 科目が 1 人、5 科目が 6 人、4 科目が 3 人、3 科目が 1 人、2 科目が 6 人、1 科  
目が 4 人だった。

## 3 担当者

秋期は専任教員 3 人（小木曾左枝子、副島健治、濱田美和）、及び、非常勤講師 7 人（高畠智美、中河和子、

永山香織，藤田佐和子，松岡裕見子，要門美規，横掘慶子），春期は専任教員 4 人（小木曾左枝子，副島健治，田中信之，濱田美和），及び，非常勤講師 5 人（高島智美，中河和子，藤田佐和子，松岡裕見子，要門美規）が授業を担当した。いずれの期も専任教員の濱田がコースのコーディネートをを行った。

## 4 スケジュール

秋期は，2016 年 10 月 7 日（金）～2017 年 2 月 9 日（木）を授業期間とした。12 月 22 日（木）～1 月 4 日（水）は冬季休業，1 月 13 日（金）は大学入試センター試験準備日のため，休講とした。また，曜日調整のため，1 月 10 日（火）は月曜日の授業を行った。

春期は，2017 年 4 月 10 日（月）～7 月 27 日（木）を授業期間とした。曜日調整のため，5 月 2 日（火）は金曜日の授業を行った。

学期ごとにコーディネーターの濱田がオリエンテーションを行った。実施日は，秋期は 2016 年 10 月 4 日（火），春期は 2017 年 4 月 5 日（水）である。オリエンテーションでは，学生に各授業科目の目的，理解達成目標，授業計画等を掲載した授業概要の冊子（授業概要は国際交流センターホームページ上にも掲載，Web 版は日本語と英語での閲覧が可能）を渡し，コースの内容，各授業科目の詳細について説明を行った。春期のオリエンテーションでは，履修の際の参考となるよう，秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は，授業開始後 1 週間以内に行い，履修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

## 5 授業内容

総合日本語コースは，上級および中級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが，日本語課外補講は成績評価が必要でないため，授業科目によっては必要に応じ，総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。科目別の授業概要は表 1 の通りである。科目名に C のついた授業は上級レベル，B のついた授業は中級レベルである。いずれの科目も秋期と春期で同一の授業概要（目的）となっているが，上級レベルの授業については，秋期に履修した科目を春期に続けて履修できるように，授業で取り上げるトピックやタスクの内容は期ごとに変えている。

表 1 総合日本語コース授業概要（2016 年 10 月～2017 年 9 月）

授業科目名 （開講曜限）[担当]	授業概要
秋期：読解 C2a（火 4）[藤田] 春期：読解 C1a（火 4）[藤田]	文章全体の意味を捉えたり，文章の細かい部分を読み取る練習をすることにより，大学での学習や研究に必要な日本語の基本的な読解能力と日本語能力試験に合格するために役立つ力を身につける。秋期は『新完全マスター読解 日本語能力試験 N 1』（スリーエーネットワーク），春期は『日本語能力試験徹底トレーニング N 1 読解』（アスク出版）を主教材として使用する。
秋期：読解 C2b（木 3）[永山] 春期：読解 C1b（木 4）[田中]	留学生に必要とされる専門書，論文の読解能力の育成を目指し，教養書，新聞記事等日本での学生生活で出会う様々なテキストタイプの読み物（日本人向けに書かれたもの）を扱う。それぞれのタイプの読み物の特徴となる基本的な構造，文体等を把握し，それに慣れる手立てを見つける。
秋期：文法 C2（木 2）[濱田] 春期：文法 C1（火 1）[濱田]	大学での学習，研究に必要な上級の文法・表現を整理し，多くの練習問題を解きながら習得する。日本語能力試験受験対策も行う。秋期は『日本語能力試験レベルアップトレーニング 文法 N 1』（アルク），春期は『新完全マスター文法 日本語能力試験 N 1』（スリーエーネットワーク）を主教材として使用する。
秋期：作文 C2（金 2）[松岡] 春期：作文 C1（火 2）[松岡]	論理的な文章を書くために必要な構成，表現，文法の基本を学び，学習した項目を用いてまとめた文章を書くことで，レポートや論文を書くための基礎力をつける。文章を書く練習にはコンピュータを使用する。

秋期：聴解 C2 (水 3) [ 要門 ] 春期：聴解 C1 (水 3) [ 要門 ]	大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いた練習を行う。
秋期：会話 C2 (火 3) [ 松岡 ] 春期：会話 C1 (火 3) [ 松岡 ]	ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話力を伸ばす。また、人や物、経験など様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する力、意見や感想を述べる力を養う。
秋期：漢字 C2 (月 3) [ 高島 ] 春期：漢字 C1 (月 3) [ 高島 ]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。プレースメントテストの結果をもとに選んだテキスト (『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.2 (凡人社) 等) を用い、大学での学習、研究生活に必要な漢字を習得する。
秋期：表現技術 C2 (月 2) [ 濱田 ] 春期：表現技術 C1 (月 2) [ 濱田 ]	目上の人や初対面の人とやりとりする、あるいは、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現、日常的・実用的な文章の書き方、日本語での口頭発表のスキルを習得する。
秋期：日本文化 C2 (水 4) [ 中河 ] 春期：日本文化 C1 (水 4) [ 中河 ]	留学生として日本社会を分析する試み (情報の読み取り、整理など) を TV 番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。
秋期：文法・表現 B2a (月 1・2) [ 高島 ], b (水 1・2) [ 中河 ] 春期：文法・表現 B1a (火 1・2) [ 高島 ], b (水 1・2) [ 中河 ]	指定されたトピックについて自分の力で話を組み立てていくことを通して、大学生活・日常生活に必要な中級の日本語能力を身につける。『ジェイ・ブリッジ』 (凡人社) を主教材として使用する。
秋期：文法・読解 B2a (火 1・2) [ 松岡 ], b (木 1・2) [ 副島 ] 春期：文法・読解 B1a (木 1・2) [ 副島 ], b (金 1・2) [ 松岡 ]	様々なトピック内容の読み物を日本語学習の教材とし、大学での学習や研究に必要な日本語の言語能力の基礎力をつけ、同時にトピックの内容などを通して考える力を養成する。『日本語中級 J301』、『日本語中級 J501』 (スリーエーネットワーク) を主教材として使用する。
秋期：文法 B2 (金 1・2) [ 小木曾 ] 春期：文法 B1 (月 3) [ 小木曾 ]	初級の文法を復習しながら様々なトピックの読み物を読み、中級への足がかりとなる文法を学ぶ。また、大学での学習や研究に必要な考えをまとめる力を養うために、各トピックについての作文課題などを通して書く力を養成する。『中級へ行こう』 (スリーエーネットワーク) を主教材として使用する。
秋期：聴解 B2 (木 3) [ 横堀 ] 春期：聴解・会話 B1b (火 3) [ 田中 ]	中級の文法事項や語彙の習得を意識しながら、日本の大学で学生生活を送る上で必要となる日本語能力の中で、特に聴く力を身につける。日本の社会や文化を題材としたニュース、友人同士、学生と教員、初対面の人同士の会話などの聴解教材を使用する。
秋期：会話 B2 (水 3) [ 横堀 ] 春期：聴解・会話 B1a (月 2) [ 小木曾 ]	大学での学習や研究を行っていく上で必要となるプレゼンテーションなどのパブリックスピーチを重視し、中級レベルの語彙や文法を使って、自分自身で考えたことなどを場面に応じて適切に口頭で表現できる力を養成する。
秋期：漢字 B2 (月 3) [ 濱田 ] 春期：漢字 B1 (月 3) [ 濱田 ]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。プレースメントテストの結果をもとに選んだテキスト (『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.1 (凡人社) 等) を用い、大学での学習、研究生活に必要な漢字を習得する。

\*1 限 8 : 45 ~ 10 : 15, 2 限 10 : 30 ~ 12 : 00, 3 限 13 : 00 ~ 14 : 30, 4 限 14 : 45 ~ 16 : 15

\*1 回 90 分 (上級レベルの全科目、聴解 B2, 会話 B2, 漢字 B2, 文法 B1, 聴解・会話 B1a, 聴解・会話 B1b, 漢字 B1) あるいは 180 分 (文法・表現 B2a, 文法・表現 B2b, 文法・読解 B2a, 文法・読解 B2b, 文法 B2, 文法・表現 B1a, 文法・表現 B1b, 文法・読解 B1a, 文法・読解 B1b) の授業を全 15 回行っている。

なお、学生による授業評価アンケートは、日本語課外補講上級および中級クラスとまとめて実施した。授業評価アンケートの結果については、日本語プログラム授業アンケートを参照いただきたい。

## 6 成績評価

成績評価の方法については、成績評価の基準を授業概要に明記するとともに、オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が、秀（90点以上）、優（80点～89点）、良（70点～79点）、可（60点～69点）、不可（59点以下）で判定を行うが、総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。9月（留学期間が半年の学生については3月）に成績を記した履修証明書の発行を国際交流センター長名で行った。

## 7 学生からの評価

前述の通り、各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し、これ以外に、総合日本語コース全体についてはインタビュー調査（実施日：2017年7月25日（火）～28日（金）、8月1日（火）、4日（金）、調査対象：2016年度日本語・日本文化研修留学生（2人）、協定校からの交換留学生（17人））を行った。この結果を表2に示す。

表2 総合日本語コースインタビュー調査結果

1. 総合日本語コース：科目について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 十分だった。（14人）</li> <li>・ 十分だった。作文があるし、会話もあるし、そして聴解と読解もあるから、十分だと思う。</li> <li>・ 十分だと思うけど、専門の授業と重なる科目があったのが残念だった。</li> <li>・ 秋期はたくさんの科目があったほうがいいが、春期は修了レポートで忙しいので、そんなに多くなくてもいい。</li> <li>・ 翻訳の授業があったらもっといいと思う。</li> <li>・ 日本の新聞とか時事問題についての授業があるといいと思う。日本の現状に触れることができるから。</li> </ul>
2. 総合日本語コース：レベルについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちょうど良かった。（6人）</li> <li>・ 私にとって大体ちょうどいいと思う。</li> <li>・ 授業によって違うが、全体的にはちょうど良かった。</li> <li>・ 日本語能力に関するレベルは大丈夫だった。実用性を高めるためにたくさん練習したほうが良いと思って受講した。</li> <li>・ ちょうど良かったから難しかったの間ぐらいで、良かったと思う。ちょっと難しいほうが良いと思う。</li> <li>・ 私にとってちょっと難しい科目があった。</li> <li>・ 私にとって上級クラスの授業はちょっと難しかった。</li> <li>・ 少し難しすぎることもあったけど、大体ちょうど良かった。</li> <li>・ 私は作文がちょっと難しかった。</li> <li>・ 漢字が難しかった。漢字の読み方はわかるけど、書くことができない。</li> <li>・ 大体良かったと思う。秋期の文法C2はそんなに難しくなかったけど、春期の文法C1は難しかった。</li> <li>・ もっと難しいレベルのことも勉強したい。</li> <li>・ 聴解はちょっと易しすぎると思った。表現技術はちょうど良かった。作文は秋期はちょうど良かった。春期にもう一度取ると、簡単だと思った。</li> <li>・ 大体ちょうど良かった。聴解と会話はときどき簡単だと思った。</li> </ul>
3. 科目選択の際に重視したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1つは時間帯、もう1つは自分が勉強したいことで選んだ。</li> <li>・ 1つ目は専攻の授業と重ならないように、2つ目は自分の弱点を補充できるかどうかを考えて選んだ。</li> <li>・ まずは曜日、他の専門と同じ曜日に授業を取れば移動が少なくすむと考えた。私の場合は、4月から総合日本語コースを取ったので、10月から取っている人に相談して、内容などを聞いて決めた。</li> <li>・ 時間割を見て、専門の授業と重ならないかを考えて選んだ。</li> <li>・ 一番は、もっと正確に話せるようになりたいと考えて選んだ。そういう授業を受けたら日本をもっと知ることができるのではないかと思った。</li> <li>・ まずはその科目を勉強したい、自分の日本語レベルを高めたいということで選んだ。修了レポートに役立つよう作文を取った。そして、時間帯も選ぶときに大切だと思う。</li> <li>・ まずは特に勉強したい科目を選んで、そのあと、時間帯で選んだ。</li> <li>・ 秋期は自分に足りないものを考えて選んだ。春期は時間帯を重視した。</li> <li>・ 秋期は自分の日本語のレベルに合わせて、春期は空いている時間の授業を選んだ。</li> <li>・ 自分の日本語のレベルをもっと上げるために絶対に必要だと思う科目を選んだ。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が苦手な科目を選んだ。(2人)</li> <li>・苦手な点を選んだ。漢字は秋も春も選んだ。</li> <li>・自分に一番不足していると思う科目を選んだ。</li> <li>・秋期はN1テストと修了レポートのために選んだ。春期は自分が弱い点、それから時間帯も考えて選んだ。</li> <li>・秋期はN1のために、春期は自分の好みと苦手なものを選んだ。</li> <li>・私は修了レポートとN1の試験のために選んだ。</li> <li>・N1の試験にかかわる科目を選んだ。</li> <li>・国の大学の授業科目と似ていて、単位互換がしやすい科目を選択した。</li> </ul>
4. 自身の日本語力について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伸びたと思う。特に聞き取りが伸びた。</li> <li>・伸びたと思う。特に聴解が伸びたと思う。</li> <li>・聞き取りと会話のレベルが高まった。作文も少しだけ伸びた。作文は難しいから。</li> <li>・伸びたと思う。聴解が一番効果があると思う。会話の能力も少し伸びた。また、修了レポートもあるから、論文の形式や書き方や使う言葉なども伸びたと思う。</li> <li>・聴解の能力はかなり伸びた。全部の授業が日本語で行われるので、どんどん慣れてわかるようになった。そして、自分の考えを伝えること、会話が伸びた。</li> <li>・すごく伸びた。特に話す力と聴く力。日本に来る前に、文法とかいろいろ勉強したけど、話すとか聴くとかはとても苦手だった。</li> <li>・話す力と聴く力が伸びた。国でN1を3回受けたけど全部不合格だった。聴解が聞き取れなかった。この間N1を受けたとき、聴解が70%から80%わかった。</li> <li>・ちょっと伸びた。話し言葉と聞き取りが伸びた。でも、もっともっとがんばったら良かったと思う。</li> <li>・伸びたと思う。会話と読解と聴解が伸びたと思う。</li> <li>・伸びたと思う。話すこと、読むこと、聴くことが伸びたと思う。最初は辞書がないと話せなかったが、今は辞書を使わなくても話すことができるようになった。</li> <li>・伸びたと思う。以前より会話で流暢に話せる。</li> <li>・もちろん伸びたと思う。日本に来る前は日本語を使う機会がなかったので、日本語を話すのが恥ずかしかったけど、日本人の学生と話したり、今は大丈夫になった。</li> <li>・伸びたと思う。専攻の授業で論文を書きながら他の論文を読んだりして文章の表現力が伸びたし、発表もあるので話す能力も身についたと思う。</li> <li>・伸びたと思う。専門でレポートがたくさんあるので、特に作文の力が伸びた。</li> <li>・伸びたと思う。レポートを書く力が伸びたと思う。</li> <li>・自分はあまり感じてないけど、途中で国に帰ったときに国の先生に日本語がうまくなったとほめてもらった。</li> <li>・あまり伸びなかったと思うが、最初よりも少し聞き取り易くなった。ただ、留学中に漢字学習があまり進まなかったのが残念だ。</li> <li>・あまり伸びていないと思う。話すときにもうちょっと日本語らしい日本語が使えるといいと思う。</li> <li>・あまり伸びなかったと思う。国際交流会館に住んでいて、周りに同じ国の人が多すぎるから、母語で話すことが多かった。他の大学に留学した友だちは日本人学生と同じ寮に住んでいるから、日本語の力が伸びたと思う。その大学は交換留学生を同じ国の人同士の部屋が近くならないようにしているから、日本人学生との交流も多くなる。私は特別研究学生で、大学院の授業に出たが、大学院生は自分と同じ国の人ばかりで、大学院の授業でも日本語を話すチャンスがあまりなかった。学部の授業にも出席したが、200人～300人の大人数の授業で、隣の人に話しかけることはなかった。</li> </ul>
5. 富山での留学生活について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかった。本当に自分が自分ではないぐらいに日本にいる間に変わったと思う。もっとコミュニケーションがうまく取れるようになったし、積極的になって、友達も作れるようになった。いろいろなことをやってみたいと思うようになって、自分でもできるという自信がついた。本当に以前は内気で、発表するときも震えながらしていた。</li> <li>・楽しんでいる。静かな環境が好きなので、富山が好きだ。</li> <li>・国の生活とまったく違う。国の大学生活は大体バスで、あるいは寮でみんなと住んでいる。富山に来て一人暮らしをして、自転車で学校へ行くことはのんびりして良かったと思う。</li> <li>・富山は小さい都市だから、町全体を詳しく知ることができたことがいい点だった。あとは静かなのも良かった。ただ、天気は辛かった。暑さには慣れることができない。</li> <li>・とても楽しかった。一番悩んだのは、富山は小さい町なので、最初富山に来たときは遊ぶところがないし、人も少ないし、とても驚いた。最初は寂しかったけど、富山は自然はきれいなところで、いろいろなところを見て回るのにいいところだと思う。</li> <li>・楽しかった。物価とか家賃とか安くて良かったが、交通はちょっと不便だった。日本人学生の友達もできた。みんな優しい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番困ったのは車がない人はどこへ行くにもとても不便だったことだ。私は自転車に乗れないし、富山はバスも少ないし。富山に来てから、扁桃腺がずっとはれていて1週間に1回病院へ行った。富山の気候が体に合わなかったのかもしれない。この他は大丈夫だった。富山は生活費が安くて、おばさんやおじさんがとても優しい。病院までの行き方がわからなかったときも、道をたずねたら、病院まで15分一緒に歩いて連れて行ってくれた。東京ではみんな忙しそうだったが、富山では寮の近くに住んでいるおばさんやおじさんもいつもあいさつしてくれる。富山の人は親切だと思う。</li> <li>・修了レポートを書いたときは大変だったが、全体的には楽しかった。特に旅行が楽しかった。九州とか、関西とか、北海道とか。富山は良かったと思うが、寮から大学までの交通がちょっと不便だと思う。</li> <li>・とても楽しかった。実は、修了レポートは難しいことが多いけど、指導教員とチューターと友達が助けてくれたから、とっても良かったと思う。でも、楽しかった。</li> <li>・充実した1年になったと思う。富山大学の授業方式が良かったと思う。専門のゼミで少人数で勉強することで実質的に勉強できるし、学生同士でコメントし合ったりする中でも勉強になった。総合日本語コースも個人的に結構弱点だと思う授業が取れてうれしかった。富山での日常生活は寮が遠くて、天気もちょっと悪い日が多くて大変だったけど、それ以外は大丈夫だった。寮自体は1人部屋だし、きれいだし、安いし、とてもいいと思う。</li> <li>・とても楽しかった。寮が1人部屋で、それが一番便利だし、ゼミのみんなといつも一緒にいて、そのグループに属している感じがとても良かった。ゼミの日本人学生とも仲良くなった。</li> <li>・いいと思う。チューターと話したおかげで自分の力が伸びた。私たちはゼミに参加したから、日本人の友達がたくさんできた。ゼミに参加しなかったら、チューターしか日本人の友達がいなかったと思う。困ったのは寮が大学まで遠いから、バスの料金も高い。自転車がなかったらとても不便だと思う。</li> <li>・日本人と一緒に授業を受けることもできるし、留学生と一緒に授業もあるし、良かったと思う。できれば短期留学生に対しての課外活動があるのもっといいと思う。たとえば、ホームステイとか異文化交流会みたいなものがあると良かったと思う。</li> <li>・富山の最初のイメージは田舎だと思う。物価はそんなに高くないことは良かった。でも、交通について私は自転車に乗れないので、ちょっと不便だと思う。</li> <li>・ちょっと気になるのは授業を選ぶとき、英語を選ぶことができないのが残念だと思う。日本人はどう英語を勉強しているか知りたかった。富山でいいことは、学部やセンターで見学旅行や活動を行っていて、とても勉強になった。続けてほしい。</li> <li>・楽しかったけど、富山の交通は不便だと思う。そして、教養教育の授業と総合日本語コースの授業はいいと思うが、専門の授業は学生が多くて、先生の話が聞き取りにくくて、おもしろくなかった。自分がもっと勉強したいと思うものが、聞き取るのが難しく勉強しにくかった。</li> <li>・国の大学と日本の大学の違いがある。国では授業を自分で選ぶことが少なく、必須科目がたくさんあるが、日本ではそんなに多く授業がなく、自分で学習する能力がもっと必要だと思う。自分に厳しい人はたぶん大丈夫だけれども、自分に厳しくない人にはあまり良くないと思う。</li> <li>・以前、他の大学で1年間短期留学をしたが、そのときのほうが楽しかった。そのときは初めての日本で新鮮感が高くて、奨学金も今より高くて、生活のストレスも少なかった。寮もスーパーも大学にとっても近くて、今考えるとすごく助かった。</li> <li>・自分1人で生活した経験がなかったから、1人で暮らすのはちょっと寂しかった。</li> </ul>
--	---

まず、コースの開講科目数については十分だったという意見が多かった。

次に、コースのレベルについてはちょうど良かったという意見が半数程度で、科目によって難易度は異なるが、レベルが合わなかったと答えた学生からは難しかったという意見が多く聞かれた。

科目選択の際に重視した点として多かったのは、開講時間帯、自分自身が苦手な点について力をつけようとして選んだという回答と日本語能力試験受験を考慮して選んだという回答だった。

自身の日本語能力については聞く、話す力を中心に力をつけたと感じている学生が多かった。また、専門の授業や修了レポートの作成を通して、文章を書く力の向上を挙げる学生も複数見られた。

最後に、富山での留學生活については、同じゼミの学生やチューターと良い関係が築けた学生はとても満足しているようだった。富山の良い点としては静かな環境、豊かな自然、生活費があまりかからないこと、一方、困った点としては公共交通機関が不便な点、特に大学から寮までが遠いことを挙げる学生が多かった。

## 8 おわりに

総合日本語コースは、第12期より上級レベルの科目に加えて新たに中級レベルの科目の提供も始め、今回第13期はその2年目である。第13期は上級レベルの科目を受講する学生が多く、中級レベルの科目を受講した学生は秋期に3人（うち2人は上級レベルの科目を中心に受講し1科目のみ中級レベルを受講）、春期に1人と少なかった。しかし、インタビュー結果にも見られるように一部の科目については難しかったという意見も複数の学生から聞かれた。上級レベルの科目は難しすぎるが、中級レベルでは簡単すぎるという学生が以前よりも増えているように思われる。

今後もコース受講者の日本語力やニーズをアンケート調査やインタビュー調査を通じて詳細に把握しながら、より良いコースを提供の在り方を検討していきたい。